

今年の夏の特徴は「雨が多く日照時間が少なかった」と言えます。

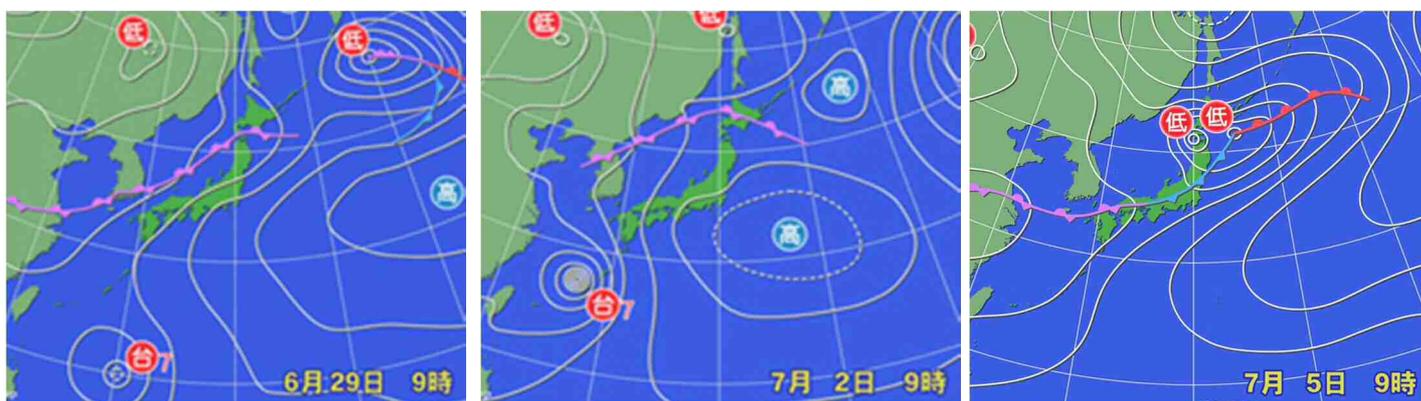
<月別経過>

- 6月**：上旬＝高気圧の張り出しの中で晴れた日が多かった。  
 中旬＝顕著な低温で13日の日最高気温10.9℃は4月中旬並み。  
 下旬＝気圧の谷や湿った気流・前線などの影響で曇りや雨の日が多かった。  
 ・月降水量の合計170.0mmは、平年の2.6倍で多い方の第4位。12日の日降水量58.5mmは6月として多い方の第3位の記録（平年値＝64.1mm）。
- 7月**：上旬＝梅雨前線が北海道付近に停滞したため雨の日が多く、降水量の合計は、157mmで平年の約5倍と多く1日から5日の合計が145mmと記録的な多雨となった。特に5日の日降水量86.5mmは7月の第1位の記録となり日照時間も12.9時間と平年の3割程度となった。  
 中旬＝高気圧の張り出しの中で晴れた日が多く、気温も平年より高めに経過した。  
 下旬＝引き続き晴れた日が多く、気温も高めで31日の日最高気温は29.5℃と真夏日に近い暑さとなった。  
 ・月降水量の合計183.0mmは平年の約2倍で多い方の第4位の記録。
- 8月**：上旬＝高気圧の張り出しの中で晴れた日が多かったが一時的に低温の日があった。  
 中旬＝前線や低気圧・湿った気流の影響で雨の降った日が多く大雨の日もあった。  
 また、中頃強い寒気が入り18日の日最低気温8.2℃は6月上旬に相当し、低い方の第4位となった。  
 下旬＝中旬に引き続き、前線や低気圧・湿った気流の影響で雨の日が多く、降らなかったのは2日だけであった。

・月降水量の合計 242.0mm は平年の約 1.4 倍で多い方の第 4 位の記録。

### <解 説>

今夏の雨の多さは例年にない状況でした。この原因は、例年、真夏をもたらす太平洋高気圧の勢力が北まで及ばず、代わって冷夏の原因となるオホーツク海高気圧が強まり、北海道は 2 つの高気圧の間になって梅雨前線が停滞したため「低温・曇天・日照不足」「多雨」となりました（下図参照）。この状況により北海道では農作物に大きな影響が出てコメの作柄概況では 15 年ぶりの「不良」となりました。また、皆さんが成長を楽しみにしていた家庭菜園も出来栄は芳しくなく、例年並みの収穫とはいかないで淋しい思いをされた方が多かったのでないでしょうか？  
また、このような現象は過去にあまり現れなかったのですが、今後、同じような気圧配置になる恐れがあります。北海道の夏は、「天気がぐずつく」のが平均的な気候になることが懸念されます。



梅雨前線が停滞

日降水量 86.5mm